

まちづくり

愛着のあるまちへ
さまざまな企画を展開

市誕生10周年記念事業

市誕生から10周年を記念し、愛着あるまちとして次世代につないでいくため、新規事業のみならず、既存の事業へもさまざまな企画が展開されます。

●主な質疑

問 10周年功労はどのようなものか。

答 現在、本市では表彰制度が定められていないため、10周年を契機に制度を設けていきたい。

問 対象者の想定は。

答 功労に対する表彰のほか、善行に対する表彰、特別表彰



市内循環バス

交通

広域的な利便性も
考慮

市内循環バスの見直し

移動手段の確保や外出しやすい交通体系を構築するため、公共交通ネットワークの見直しが図られます。

●主な質疑

問 平成26年度実施の検討業務の結果は。

答 定時定路線を基本としたデマンド交通との組み合わせをはじめ、公共施設利用に重視した見直し、鉄道や路線バスとの接続による広域的な移動、利便性の向上などの改善方針を打ち出した。

問 運行の目的をどう考えているのか。

答 合併以前に旧大井町で運行していた2台のバスをそのまま市内全域に拡大したことから、目的の明確化も課題となっている。今回の見直しの中で、詳細を検討していきたい。



児童発育・発達支援センター

福祉

専門的な支援や
相談に対応

児童発育・発達支援センター

お子さんの発育・発達に不安を感じたら……。専門的な相談に応じたり、療育支援も受けられる児童発育・発達支援センターがフクトピアにオープンします。市の機関や医師との連携体制も整いました。

●主な質疑

問 児童発育・発達支援センターは社会福祉法人に任せるといふことで運営費補助金が支出されているが、行政とのかわり。

答 本センターは障がい福祉課が主管し、保健センターなどでの健診時に、発育に心配があると相談を受けた場合、保健師が本センターにつなぐ、あるいは子育て支援課で同様の相談があればそのケースワーカーが本センターにつながるという連携をとり、どのようなニーズがあるかを毎月確認する運営を行う。

福祉

新たな地域福祉の
体制がスタート

福祉総合支援事業

市民相談室が市民総合相談室と名称が変わり、複合的な相談支援が必要なケースは福祉総合支援チームが担当します。複数の行政機関を結ぶ新たな地域福祉の体制がスタートします。

●主な質疑

問 引きこもりなどのケースで将来的な福祉的ニーズは相当数あるが、福祉総合支援チームは、相談者のところへ出向いて行うアウトリーチ、あ

保育

良質で安心な保育
のため4園増へ

民間保育園整備費補助



人口増加が県内第3位になるなど、特に若い子育て世代が増加して、保育園を求める声が高まっていますが、平成27年度の3園に続き、平成28年度には新たに4つの認可保育園が開設されます。

●主な質疑

問 待機児童対策として保育所が増えるのはうれしく思うが、子育ての整備計画では平成28年度は1増とされていた。4つにした理由は何か。

答 市の子ども・子育て支援計画を策定した段階での予想を大きく上回る

子育て世代の本市への転入が見られ、保育所への入所申込者数が昨年度に比べ150人も増えている。加えて耐震強度不足の保育所から移っていた必要もあり、良質で安心な保育を提供するには、計画よりも増やす必要があると判断した。

環境

大井弁天の森の
賑わいをいつまでも

緑地管理事業

大井弁天の森用地取得

ラジオ体操やウォーキングなどの運動の場、子どもたちの遊び場、高齢者の憩いの場として親しまれている貴重な緑地を、将来にわたり存続させるため、用地取得を進めます。

●主な質疑

問 大井弁天の森の面積と、そのうちの市有地・民地の内訳は。

答 全体の面積は3万1300㎡となっていて、これまでに1万2801㎡を取得してきた。残る民地は1万4963㎡となっている。なお、その

他の面積は道路や水路などといった施設になる。

問 今後、どのように用地取得をしていくのか。

答 未取得となっている民地を特別緑地保全地区として都市計画決定を行い、計画的に用地取得を進めていきたいと考えている。



きこもりなどの事例に対しては、家族問題や経済的困窮など複合的な背景を踏まえ、ともに理解して解決にあたりたい。



大井弁天の森の外観

※アウトリーチ…援助が必要な人々に対して、公共機関などが積極的に働きかけて支援の実現を目指すこと。